

見樹院ニュース

O T E R A N E W S

第59号 2013年4月1日発行

浄土宗 見樹院
住職 大河内秀人

〒112-0002

東京都文京区小石川3-4-14

TEL 03 (3812) 3711

FAX 03 (3815) 7951

Eメール: kenjuin@nam-mind.jp

www.nam-mind.jp

福島の声を聴き、 いのちと未来を問う

3月3日 シンポジウム
「福島から問う、いのちと未来」

高校生の演劇DVD 上映会
「今、伝えたいこと (仮)」
月6日、月19日、3月23日

延べ300名近くの方々と共に、
被災者の声に耳を傾け、考えました。

私たちの社会が後の世代まで続いていく以上、起きてしまった悲劇を乗り越え、犯してしまった罪を償う唯一で最善の道は、真実に生きることです。しかしこの期に及んでも経済的利益を優先するこの国の誤魔化しと隠蔽

が、さらに人々を苦しめ、社会の倫理と品格を崩壊させています。

私たちは本尊阿弥陀如来の前で、大震災 原発事故の苦しみを抱える人々

の声に耳を傾け、この災害の原因に少なからず関係する私たちだからこそ、その責任と共に可能性を自覚し、これからどうしていくべきかを考えました。

福島の苦しみは複雑で、立場によって抱えている問題も、支援や補償の届き方も様々で、人々が分断され、自分の思いを声に出すことがとても難しいのです。バッシングや嫌がらせの恐怖もあります。そんな中で勇気を持って発言してくれた人の思いに、見樹院としても応えていきたいと思えます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



南相馬市同慶寺 田中徳雲師

2013年度 見樹会費納入のお願い

■見樹会費は1口 3,000円とさせて頂いております。

これまでの口数にこだわらなくて結構です。会の活動や、見樹院の支援に使用させていただき、見樹院(宗教法人)会計とは別に見樹会(檀信徒)の管理の下、収支を報告させていただきます。

■納入は、原則として郵便振替にてお願い致します。

振替口座は、00150-4-694808

口座名「見樹会」です。

同封の振替用紙をご利用ください。

■現金でご持参される場合は、月例供養「極楽誕生会」と「施餓鬼会」の折に世話人の担当者がお受けいたします。

お手数料をおかけいたしますが、受付体制が整いますまでは、管理上できるだけご協力の程よろしくお願い致します。

ご案内

花まつり

4月6日(土)~8日(月)

誕生仏をお飾りし、甘茶をかけてお釈迦様のお誕生をお祝いします。

月例供養 極楽誕生会

4月7日(日) 午前9時より

法要後、引き続き「花まつり」

甘茶供養、甘茶で茶話会

10時半終了予定

今後の主な予定

月例供養 (毎月第1日曜午前9時)

5/5, 6/2, 7/7, 8/4, 9/1, 10/6, 11/3, 12/1

大施餓鬼会 6月30日(日)





4月7日は浄土宗祖法然上人のお誕生日。そして4月8日は仏教の開祖 お釈迦様の誕生を祝う花まつりです。お釈迦様は、今からおよそ2500年前、現在のインドネパール国境近くのルンビニーの花園で、出産のため実家に向かう途中の母親マヤ夫人の右の脇の下からお生まれになりそのまま7歩歩まれて、天と地を指差し「**天上天下 唯我独尊 てんじょうてんげ ゆいがどくぞん**）」とおっしゃいました。

荒唐無稽なおとぎ話のようですが、これには意味があります。右の脇の下」というのはインドのカースト制度での身分を示し「7歩歩いた」のは、6つの世界(六道＝地獄 餓鬼 畜生 修羅 人間 天)を輪廻(りんね)する迷いから解脱(げだつ)してさとりを開く(くだ)ということを表しています。

そして「唯我独尊」という言葉は、独善的な悪い意味で使われてしまっていますが、本来、限りない過去から未来への時間の中でも限りなく広い世界(宇宙)の中においても、**たった一つのかけがえない命の尊さ**を訴えているのです。そしてお釈迦様は厳しい身分制度の社会にあって人は《生まれ》によってではなく《行い》によって貴くもなり賤しくもなる」と教えています。本質的な苦しみ、差別やあらゆる支配から解放され、天地宇宙の道理の中に本当の幸せを見出した人。つまりお釈迦様誕生の逸話は、仏教の原点として、人間の尊厳と平等、そして可能性を伝えています。今で言えばまさに「**人権宣言**」です。

これを「**愈仏**」という生き方の形にされたのが法然上人です。どんなに愚かでも罪深くて、**南無阿弥陀仏**」となれば、阿弥陀如来が**すべての人を分け隔てなく極楽へ救ってくださる**と説かれました。

地方役人だった法然上人の父親は領地争いの敵に殺され、お釈迦様の父が王位にあったシャカ族も隣国に滅ぼされ、時代も国も違うとは言え、共に暴力の渦巻(戦乱)の世に生涯を過ごされました。そのお二人の思想に大きな位置を占めるのは平和に対する思いです。法然

上人は、仇を討てばその恨みが際限なく繰り返されるだけだ。武士の子として仇討ちをするのではなくすべての人が救われる生き方を求めてほしい」という父の遺言により出家をされ、浄土宗を開かれました。お釈迦様は**怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない**」(法句経)と説きます。

平和という観点から考えると、「唯我独尊」は、何者にも不当に支配されない確固たる自分であることという意味で重要です。暴力に走るとき、戦争に駆り立てられるとき、私たちは欲望や怨みや無知に支配されています。その支配をはねのけ、深い慈悲と智慧をもって物事をありのままに正しく見て、正しく考え、本質を見極める冷静さが必要です。私たちの食べ物やエネルギーが、環境を破壊し人権を抑圧し戦争の原因をつくっている現実があります。それは**私たちが経済優先の消費システムに支配されている**からです。経済を大きくしてそれを分配しようという発想は、多少の人々の苦しみや自然破壊という犠牲を軽視します。その一つ一つの命の尊厳に目を向けてこなかった結果、自分自身で問題を考えることをしなかった結果、私たちは未曾有の不安の中に生きることになったのではないのでしょうか。

生まれや国籍、性別、宗教、文化、障がいの有無などに関係なくすべての人の命は尊いということは、1948年、国連の「**世界人権宣言**」によって、世界のルールになりました。お釈迦様や法然上人の時代から随分時間がかかりましたが、「唯我独尊」の願いが社会の中で前進してきたことに間違いはありません。阿弥陀如来の48の誓願が叶えられた、差別も貧困も暴力もない平安な世界に向かって、わずかずつでも近づいています。

お釈迦様の誕生を祝い、天の龍神の口から甘露の雨が降り注いだという故事から、花祭りでは誕生仏に甘茶をかけてお祝いします。お釈迦様、そして法然上人のご誕生とご生涯を受け止め、私たち自らの1歩を大切に歩んで行きたいものです。